

日本骨髄バンクの現状（2003年2月末）詳細は別添一覧を参照下さい。

	前月	当月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,085	2,076	167,263	208,858
患者登録者数	156	132	2,051	13,911
骨髄移植例数	64	61	-	4,700

注) 数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。

① 第24回通常理事会、評議員会が開催されます

3月28日(金)、14時から理事会、15時30分から評議員会が当財団のある廣瀬第二ビル(千代田区神田錦町3-19)3階会議室において公開で開催されます。議案は、「任期満了に伴う理事、監事、評議員の選任について」、「本年度の収支補正予算案について」及び「次年度の事業計画案、収支予算案について」等です。

② 2月のドナー登録数、推進月間より3カ月連続2000人超!

2月の月間ドナー登録者数は2076人で、取消者数は556人、実質増加数は1520人でした。登録会は93回(うち献血併行87回)が実施され、合計823人の方にご登録いただきました。前年同月との比較では、回数では160.3%(献血併行170.6%、集団登録85.7%)、登録者数では113.8%(献血併行137.0%、集団登録56.0%)でした。一方、固定窓口の登録者は1253人と前年比117.3%で、先月に引き続き1000人を上回る登録者がありました。昨年2月は、「プロジェクトX」の放送の反響で1000名以上の登録があり、前年比はそれほど高くはなかったものの、窓口登録数は今年度最高でした。全体としては推進月間の12月、10月、1月について今年度4番目の実績となりました。都道府県の登録会開催数は、東京13回、北海道、福島8回、富山、石川、愛知6回、沖縄5回、茨城、埼玉、京都、福岡4回、千葉、大阪、長崎3回、栃木、和歌山、兵庫、広島、徳島2回、新潟、静岡、岐阜、岡山、山口、鳥取1回でした。保健所や血液センターなどの固定窓口の登録数減少が問題視されている中、昨年、今月と順調に固定窓口の登録増加が見られました。先月の患者さんの新聞報道が引き続き全国紙面にもとりあげられたこと、全国ネットのテレビ放送で患者さんの闘病の放送があり骨髄バンクフリーダイヤルを掲載していただいたことがその要因となったと思われます。しかしながら、今年度のドナー登録は、全体的には昨年度の実績を残念ながら下回ることが予想されます。今年度も後わずかですが、一丸となって頑張りましょう。

3 説明・採血分離方式いよいよ始動。申込書持参で全ての献血会場で登録可能に

本年4月より、骨髄ドナー登録の事前説明会で説明を受け「登録申込書」の記入内容を説明担当者（財団職員または地区普及広報委員、説明員）が確認した登録希望者は、全国の全ての献血会場（血液センターや献血ルームなどの固定窓口、移動献血バスを含む）で登録採血ができるようになります。これまでの、集団登録会、献血併行登録会に加え、説明だけを行う分離方式の「事前説明会」が位置付けられることとなります。採血の医師が確保できずに登録会開催を断念するケースが多くありましたが、どこでも説明会を開くことが可能となります。また、職域登録会などで時間的な拘束がある場合にも、有効に活用できる方法です。事前説明会は、財団（職員、地区普及広報委員など）が実施計画書を事前に血液センターへ提出し、説明会では提供希望者へ骨髄提供に関する説明を行い、登録意思と申込書の記入内容を受付担当者が確認して「登録申込書」に押印し、登録希望者へ最寄りの血液センター一覧とともに配布します。登録希望者は血液センターへ連絡し、献血場所を確認し、希望の献血会場で登録していただくこととなります。説明会終了後、財団は実施報告書（実施会場、説明会参加人数等）を作成し、説明会場の最寄りの血液センターへ報告します。なお、この登録申込書の期限は3カ月です。

4 ミニ移植、中高齢者への対応について

移植医療技術の進歩により、骨髄非破壊的な前処置を減量した造血幹細胞移植、いわゆる「ミニ移植」と言われる方法が、欧米から始まり国内でも血縁者間において急速に広まっています。当初この治療法では、移植後のDLI（リンパ球輸注）が想定されていましたが、最近では、DLIを必要としない方法が一般的になってきています。3月15日（土）に開催された当財団医療委員会において、「当財団では非血縁者間骨髄移植の前処置の内容について制限や規制、規定等は設けていない」ことが確認され、「ミニ移植は、患者・主治医で前処置方法を検討し実施しても差し支えない」とされ、各施設、主治医に通知されることになりました。また、骨髄バンクでは、すでに51歳以上の患者さんの申請も可能となっています（51歳以上の場合は、指定の確認書の提出が必要です）。中高齢者（50歳～65歳程度）の移植について、移植現場に十分浸透していない実態があるため、「患者・主治医の希望と判断により実施されていること」を改めて周知することになりました。なお、今後とも移植患者（主治医）がDLIを希望されても「ドナーの方の健康状況や、同意の問題で提供が得られるとは限らない」ことは従前と同じですので、ご承知おき願います。

5 「原宿ファッションボード」東京屋外広告コンクールで会長賞受賞

— 昨年の骨髄バンク10周年記念事業の一環として、JR原宿駅ホーム正面の大型看板に骨髄バンクのポスターが連作として掲示されたことは、記念誌やこのマンスリーレポートでもご紹介させていただきました。また、このポスターをご覧いただいた方からの反響も多く、ドナー登録希望の電話をたくさんいただきましたが、この度、この作品が「第3回東京屋外広告コンクール」で、会長賞を受賞することになりました。他の受賞作品はマスコミにおなじみのそうそうたる各社の作品や、FIFAワールドカップ、東京ミレナリオなど国民的関心を寄せたイベントですが、骨髄バンクも肩を並べての堂々の受賞となりました。原宿という若者の集まる駅前へ連作ポスターの掲出機会をご提供いただきました(財)日本交通文化協会、制作に多大なるご支援と協力をいただきました(株)NKB、(株)住友スリーエム、(株)電通の各社の皆様、作品の素材をご提供いただきました皆様に、心からお礼を申し上げます。

6 ミュージカル「明日への扉」9年間で50公演、啓発面でも大きな反響。

平成5年(1993年)、骨髄移植推進キャンペーンミュージカル「明日への扉」の公演活動は、学校法人滋慶文化学園グループの専門学校生徒により、大阪を皮切りに始まり、東京、大阪、福岡で毎年開催され、9年目の昨年秋には累計50回、観客動員数は延べ5万5千余人を数えました。この公演活動は、まず生徒自身が骨髄バンクを正しく知る学習を行い、出演者、バンド、音楽、照明、舞台、進行、PR係など総勢2百数十人のスタッフを編成し、教師の指導で同校の一大イベントとして取り組み、地域社会を巻き込み大きな普及啓発活動となっています。こうした中で、既にドナー登録される学生も多く、実際にドナーとなった方もおられます。さらに、公演の度に生徒の皆さんが呼びかけた募金は、毎年3月の同学園グループの卒業式で贈呈式が行われますが、現在までに7百万円を超える実績となりました。継続は力なりの証明であり、心からの感謝を申し上げます。

7 当財団各委員会、開催予定

公開委員会の傍聴をご希望の方は、事前に財団事務局までお申込みください。

国際協力事業の状況()、HLA照合サービス状況期間

日本 米国	
米国 日本	
日本 台湾	
台湾 日本	
日本 韓国	
韓国 日本	
その他の国 日本	

お知らせ